熊日1971.12.10

12月県議会 代表質問始まる

沢田知事 "財政"重点に追及 "積極姿勢くずさぬ"

十二月定例県議会は九日から質問戦に入り、同日は社会党の中村晋（熊本市）自民党の阿曽田勝（宇土郡）の両議員が代表質問に立った。本県の財政事情が来年度は急激に悪化することが予想されるため両議員とも来年度の予算編成の見通しなど財政問題を重点に質問、これに対し沢田知事は「たとえ財政事情が悪化しても積極県政の姿勢はくずさない」と答え、県民の協力を要請した。

財政問題について中村議員は「ドル・ショックで法人税、県民税は落ち込んでいる。来年度の自主財源は相当縮小されることになろうが、予算編成期を控えて県はどのような考えでいるのか」と質問、一方阿曽田議員も財政事情の悪化を指摘しながらも、「積極行政の姿勢はくずさないでほしい」と要望した。

阿曽田勝議員

中村晋議員

これに対し沢田知事は、来年度は本年度並みの施策を実行するだけで五十億円程度の財源が不足することと、そのうえ公務員の給与改定、老人医療費の公費負担、公共事業の増加に伴う地元負担増など歳出増加の材料があることを説明、「来年度はかつてない財政難になる」と述べた。しかし「本県の立ち遅れを立て直すには積極県政の姿勢はくずしたくない」として、地方交付税率の引き上げ、特別交付金の交付、起債ワクの拡大など強力に国に働きかけていきたいと強調した。

水俣病問題では、中村議員が❶チッソは新認定患者との自主交渉で補償問題をかたづけるべきである。チッソが自主交渉に応じるよう県も積極的姿勢を示せ❷患者が要求している越年資金の貸し付けに応じよ―と追及、沢田知事は「県は患者の医療救済には積極的に取り組む考えだ。しかし補償は会社と患者との間の民事上の問題であり、県が関与すべき性質のものでない」と、県のこれまでの考え方を繰り返し述べた。しかし越年資金の貸し付けについては「近く水俣市が患者の要求に応じる方針を打ち出すようなので、これを待って県も方針を決めたい」と答え、注目された。

このほか、沢田知事は老人医療費を公費負担している市町村に対し来年四月から財政援助すること、県外観光客を誘致するため来年、「熊本県を美しくする県民運動」を展開する考えがあることを明らかにした。

なお十日も引き続き県政同友会の佐藤琴子議員が代表質問、午後から自民党の宮元玄次郎、県政同友会の渡辺敬善両議員が一般質問を行なう。

知事の行動力は全くあっぱれ」「特に教育問題で難問をかたづけていくその姿勢には感服する」「おそらく県民も支持していることだろう」と、沢田県政礼賛のことばがポンポン。もっとも「このように順調なすべり出しをみせた"沢田丸"も来年は試練の年を迎えますぞ」と、警告する前提での礼賛ではあったが、それにしても質問の「遠慮なくやれ」とは、全く逆の結果になってしまった。これも与党議員としてはやむを得ないことか？

県会メモ

軍配、どうやら富永部長に？

○…社会党の中村議員は、中小企業対策の貧弱さを各金融制度の貸し付け残高を例に上げて指摘した。「経営合理化資金は十六億五千万円のうち十一月現在残高は九億円。公害防止施設設備貸し付け金も一億円中二千二百万円残っている」と述べ「中小企業の実態に沿わぬ融資は貸し付け条件を押し付けているためだ」とかみついた。

これに対し沢田知事は「検討する」と答えたが、富永商工労働水産部長は「中小企業高度化資金二億五千九百万円はすでに上期の貸し付けを完了、設備貸与制度も同じく貸し付けを終わっている。経営合理化資金についても残るは二億五千万円だけ」と数字を上げて対抗、中村議員の「血の通わぬ中小企業対策…」に反論した。

この数字の食い違い、どこから生じたのか富永部長も頭をかしげていたが、中村議員が「知恵を出せ」と沢田[illegible]

与党議員、大見え切ったけど

○…「党は私に遠慮なくやれと言ってくれた。これからする質問は、全く私の意見だけだ」と、質問の冒頭、大見えを切った自民党の阿曽田氏、沢田県政に対しどんな鋭い質問が飛び出すのやら、と期待された。

ところが質問に入るやいなや、「[illegible]沢田

及しなかったため、どうやら富永部長に軍配？ が上がった形。